



株式会社荏原製作所

2022 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会

2022 年 11 月 14 日

イベント概要

[企業名]	株式会社荏原製作所
[企業 ID]	6361
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 12 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 3 四半期
[日程]	2022 年 11 月 14 日
[ページ数]	25
[時間]	16:30 – 17:28 (合計：58 分、登壇：26 分、質疑応答：32 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	2 名 執行役 グループ経営戦略・経理財務統括部長 細田 修吾 (以下、細田) 経営企画部長 大崎 晃裕 (以下、大崎)



2022年12月期 第3四半期 決算説明会資料

荏原 (6361)

2022年11月14日

Looking ahead,
going beyond expectations
Ahead  *Beyond*

株式会社 荏原製作所

大崎：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所の2022年12月期第3四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、会を始めさせていただきます。

それでは、私どもの出席者をご紹介します。グループ経営戦略、経理財務統括部執行役、細田修吾でございます。

細田：細田でございます。よろしくお願いいたします。

大崎：司会は私、経営企画部、大崎が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

目次



当決算におけるポイント	P3	4.トピックス	
1. FY22 1-3Q 連結決算サマリ		・ E-Plan2022 標準ポンプ事業 :	P13
・ 連結業績	P4	海外戦略の進捗	
・ セグメント別	P5	5. 補足資料	
・ 地域別売上収益	P6	・ 受注高	P14
2. FY22 1-3Q セグメント別業績		・ 売上収益	P15
・ 風水力	P7	・ 営業利益	P16
・ 環境プラント	P8	・ 受注残高	P17
・ 精密・電子	P9	・ 地域別売上収益	P18
3. FY22 業績予想		・ 貸借対照表	P19
・ 連結業績	P10	・ キャッシュ・フロー	P20
・ セグメント別	P11	・ 資本的支出・減価償却費・研究開発費	P21
・ 事業環境の変化への対応	P12		

■ 略語の説明

- ・ FY : 会計年度 (例 「FY22」は2022年12月期会計年度)
- ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している (FY21 1QよりIFRS適用)
- FY21 1-2Q及び1-3Qは、FY21において実施した企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した遡及修正後の数値で算出している

本日のスケジュールでございますが、決算概要を細田より説明させていただき、その後に皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは、細田より説明に入らせていただきます。

細田：では私、細田からご説明をいたします。

当社の決算説明会にお集まりくださいまして、誠にありがとうございます。

当社は、12月決算会社ですので、今回が今年度の第3四半期決算になります。

当決算におけるポイント

FY22 1-3Q 業績

		前年同期比*
■ 受注高	5,945 億円	+177 億円 → +3.1%
■ 売上収益	4,800 億円	+601 億円 ↗ +14.3%
■ 営業利益	426 億円	+56 億円 ↗ +15.1%

FY22 業績予想

		前期比*	前回計画比
■ 受注高	7,835 億円	+120 億円 → +1.6%	+330 億円 +4.4%
■ 売上収益	6,700 億円	+667 億円 ↗ +11.1%	-140 億円 -2.0%
■ 営業利益	675 億円	+61 億円 ↗ +10.0%	-

*↗ は+5%以上、↘ は-5%以下の変化を、→ は変化が±5%未満であることを表す

トピックス

FY22 1-3Q 業績

- 精密・電子事業、風水力事業が牽引し、1-3Qとして全社業績は受注高、売上収益、営業利益で過去最高を更新
- 原材料価格高騰の影響を受けつつも、円安による下支えもあり増収増益

FY22 業績予想

- 通期業績予想を見直し、受注高を330億円上方修正、売上収益は140億円下方修正、営業利益は据え置き（セグメント内訳は修正）
- 引き続き原材料価格高騰や部材調達難等のリスクは残るが、各種施策を強化し業績達成を見込む

M&A

- ポンプ事業で北米のポンプ・ミキサーメーカー Hayward Gordon社を買収

初めに、当決算におけるポイントについて説明します。

まず第3四半期累計期間の連結業績ですが、精密・電子事業と風水力事業が牽引しまして、全社の受注、売上、営業利益はいずれも、第3四半期累計期間としましては、過去最高業績を更新しました。

原材料価格の高騰などのネガティブな因子は引き続き存在しておりますが、中国におけるコロナのロックダウンからの回復や中国以外の海外売上の拡大に加えまして、円安による下支えもありまして、前年同期比から増収増益という結果になっております。

通期業績予想につきましては、各事業における業績の進捗や事業環境を踏まえまして、若干の修正を行っております。全社として、受注を330億円上方修正、売上は若干調整しまして、140億円の下方修正としています。

営業利益は、全社としては前回の開示から今回は据え置きとしておりますが、セグメント間で若干調整がございます。

今回の決算のトピックとしましては、10月3日付のリリースでも既にお伝えしておりますが、標準ポンプ事業の海外戦略の一環で、カナダに本社を持ちますポンプミキサーメーカーの Hayward Gordon 社の買収を完了しまして、本決算から連結に組み入れていることが挙げられます。

以上がポイントでして、ここから先は詳細の説明ですが、まず4ページ目をご覧ください。

1. FY22 1-3Q 連結決算サマリ 連結業績



(単位：億円)	FY21 1-3Q	FY22 1-3Q	増減	増減率
受注高	5,768	5,945	+177	+3.1%
売上収益	4,199	4,800	+601	+14.3%
営業利益	370	426	+56	+15.1%
営業利益率	8.8%	8.9%	+0.1pts	
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	244	272	+28	+11.8%
為替レート* 対米ドル (円)	108.57	127.99	+19.42	
対ユーロ (円)	129.86	135.90	+6.04	
対人民元 (円)	16.79	19.38	+2.59	

* 1-3Q期中平均

第3四半期累計期間の連結業績です。

受注は177億円、前年同期から増加しまして5,945億円。売上は、前年同期から601億円増加して4,800億円。営業利益は、56億円増加しまして426億円です。営業利益率につきましては、8.9%となっています。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期から28億円増加しまして、272億円という結果でした。

為替レートにつきましては、米ドル、ユーロ、中国人民元などの主要通貨に対しまして、前年同期比から円安方向になっておりまして、円建ての業績に対しましては、プラス方向に寄与しております。

営業利益で前年同期比 56 億円の増加と申し上げましたが、その中で、8 割ぐらいが為替の影響で下支えされて底上げされた分とさせていただければよろしいかと存じます。

1. FY22 1-3Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位：億円)		FY21 1-3Q	FY22 1-3Q	増減	増減率
連結合計	受注高	5,768	5,945	+177	+3.1%
	売上収益	4,199	4,800	+601	+14.3%
	営業利益	370	426	+56	+15.1%
	営業利益率	8.8%	8.9%	+0.1pts	
風水力	受注高	2,585	2,866	+281	+10.9%
	売上収益	2,378	2,702	+324	+13.6%
	営業利益	150	176	+26	+17.6%
	営業利益率	6.3%	6.5%	+0.2pts	
環境プラント	受注高	1,196	768	-427	-35.8%
	売上収益	500	522	+22	+4.5%
	営業利益	41	4	-36	-88.5%
	営業利益率	8.2%	0.9%	-7.3pts	
精密・電子	受注高	1,972	2,299	+326	+16.6%
	売上収益	1,308	1,564	+256	+19.6%
	営業利益	180	255	+75	+41.6%
	営業利益率	13.8%	16.3%	+2.5pts	
その他、調整	受注高	13	10	-2	-20.7%
	売上収益	12	10	-1	-13.0%
	営業利益	-1	-10	-9	-
	営業利益率	-10.0%	-98.2%	-88.2pts	

続きまして、5 ページ目をご覧ください。

セグメント別の決算のサマリです。

風水力事業では、受注、売上営業利益ともに、いずれも前年同期を上回っています。中国・アジアを除く海外、主に欧州や米州、中東などで需要が堅調に伸びまして、価格改定の効果なども見られ、円安の恩恵も受けて、受注、売上が増加しております。営業利益は、第2四半期累計期間までは前年同期比で減益でしたが、今回の第3四半期累計期間から前年より増益に転じております。

環境プラント事業につきましては、前年同期の受注水準が非常に高かったこともあって、前年同期比で受注は、427 億円の減少となっておりますが、今期もゴミ処理施設の大型案件を複数件受注しておりまして、計画どおり推移しています。売上は、前年同期を上回っておりますが、営業利益に関しましては、一過性の費用計上などによって、前年同期を下回っている状況でした。

精密・電子事業につきましては、昨年に引き続きまして、市場が旺盛な半導体需要の状況で、それに対応してきたことで、受注、売上、営業利益は、いずれも前年同期比を上回っている状況です。詳細は、後ほどセグメント別に説明をさせていただきます。

1. FY22 1-3Q 連結決算サマリ 地域別売上収益



(単位：億円)	FY21 1-3Q		FY22 1-3Q		増減	増減率
	実績	構成比	実績	構成比		
連結合計	4,199	100.0%	4,800	100.0%	+601	+14.3%
日本	1,792	42.7%	1,785	37.2%	-6	-0.4%
海外	2,407	57.3%	3,014	62.8%	+607	+25.2%
中国	788	18.8%	835	17.4%	+47	+6.0%
アジア (中国除く)	783	18.7%	904	18.9%	+121	+15.5%
北米	315	7.5%	414	8.6%	+99	+31.6%
欧州	247	5.9%	430	9.0%	+182	+73.8%
中東	139	3.3%	218	4.5%	+78	+56.7%
その他	132	3.2%	210	4.4%	+77	+58.0%

※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す

次のページは、地域別の売上収益の構成です。

第3四半期累計期間における地域別です。

日本国内は、前年同期マイナスですが、それ以外の海外は、全地域で前年同期比プラスとなっております。

セグメントごとで見ますと、精密・電子事業はアジアを中心に売上が伸びておりまして、風水力事業においては、欧州、米州、中東などの海外地域が主な伸びている領域です。

中国が少し伸びてはいますが、若干伸び率は他と比べて低い状況ではあります。中国地域は、上期にロックダウンの影響があって、少し市場として低迷している状況から、業績は回復傾向にはありますが、まだゼロコロナ政策などが維持されている状況などを踏まえまして、経済成長が低調な状況です。業況は、各事業によって、良い事業も悪い事業もあるような濃淡が見られています。

5. 補足資料

地域別売上収益



(単位：億円)

	FY21				FY22		
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q
風水力	819	1,628	2,378	3,369	876	1,792	2,702
日本	416	671	932	1,266	385	674	932
アジア（日本除く）	231	495	803	1,164	221	513	811
北米	54	140	192	262	64	131	234
欧州	53	146	187	262	81	190	302
中東	33	97	129	214	62	138	211
その他	30	78	132	199	60	142	210
環境プラント	194	313	500	718	216	364	522
日本	191	304	469	673	211	343	499
アジア（日本除く）	2	9	30	45	4	20	23
精密・電子	334	790	1,308	1,927	431	960	1,564
日本	91	236	378	518	105	213	343
アジア（日本除く）	184	431	737	1,121	228	548	905
北米	40	81	122	180	51	111	180
欧州	13	35	60	96	43	82	128
その他	3	5	9	11	2	4	6

※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す

セグメント別の地域別売上収益に関しましては、18 ページにもう少し詳しく掲載しておりますので、そちらも併せてご参照ください。

2. FY22 1-3Q セグメント別業績



風水力

業績推移 (単位: 億円)



売上収益S&S比率

	FY21				FY22				
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	
風水力	35.7%	34.3%	32.9%	33.9%	38.5%	35.8%	34.0%	-	
ポンプ	31.3%	27.0%	24.1%	24.3%	30.7%	25.9%	23.1%	-	
CT	51.3%	52.9%	53.8%	55.4%	61.5%	60.6%	60.5%	-	

ポイント

ポンプ

- 標準ポンプは海外が好調で、受注・売上・営業利益が増加 (+)
- カスタムポンプは中国市場の低迷により減収減益 (-)

コンプレッサ・タービン (CT)

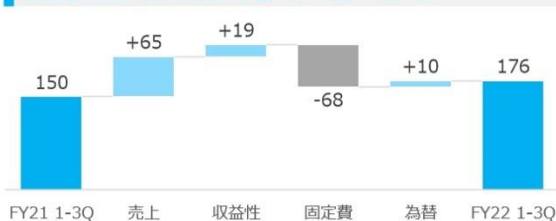
- コロナ影響の緩和などで定修工事の需要増により、サービス&サポート (S&S) の受注・売上が増加 (+)
- S&S比率の上昇により収益性が改善 (+)

冷熱

- 中国市場で脱炭素政策に対応した製品の需要増により、受注・売上・営業利益が増加 (+)

全事業 人件費が増加 (-)

営業利益増減要因分析 (単位: 億円)



続きまして、各セグメント別の業績の細かい説明に入ります。

7 ページ目が、まず風水力事業です。

風水力事業のサブセグメント、ポンプ、コンプレッサ・タービン、冷熱別の詳細をご説明します。サブセグメント別の詳細は、14 ページ以降の補足説明資料にも数値として掲載しておりますが、そちらも併せてご確認いただければと思います。

風水力事業に関しましては、受注は、前年同期から 281 億円増加の 2,866 億円。売上は、324 億円増加の 2,702 億円。営業利益は、26 億円増加の 176 億円を着地しております。

サブセグメントで言いますと、ポンプ事業は前年同期比で増収増益でした。

中でも、標準ポンプ事業に関しましては好調でして、海外、国内ともに、お客様からの早期発注等で受注が増加しています。価格改定の効果などが見られまして増収増益でした。

一方で、カスタムポンプ事業は、主に中国においての経済成長減速により需要は低調で、石油・ガス市場向けの売上が伸び悩み、減収減益といった状況でした。

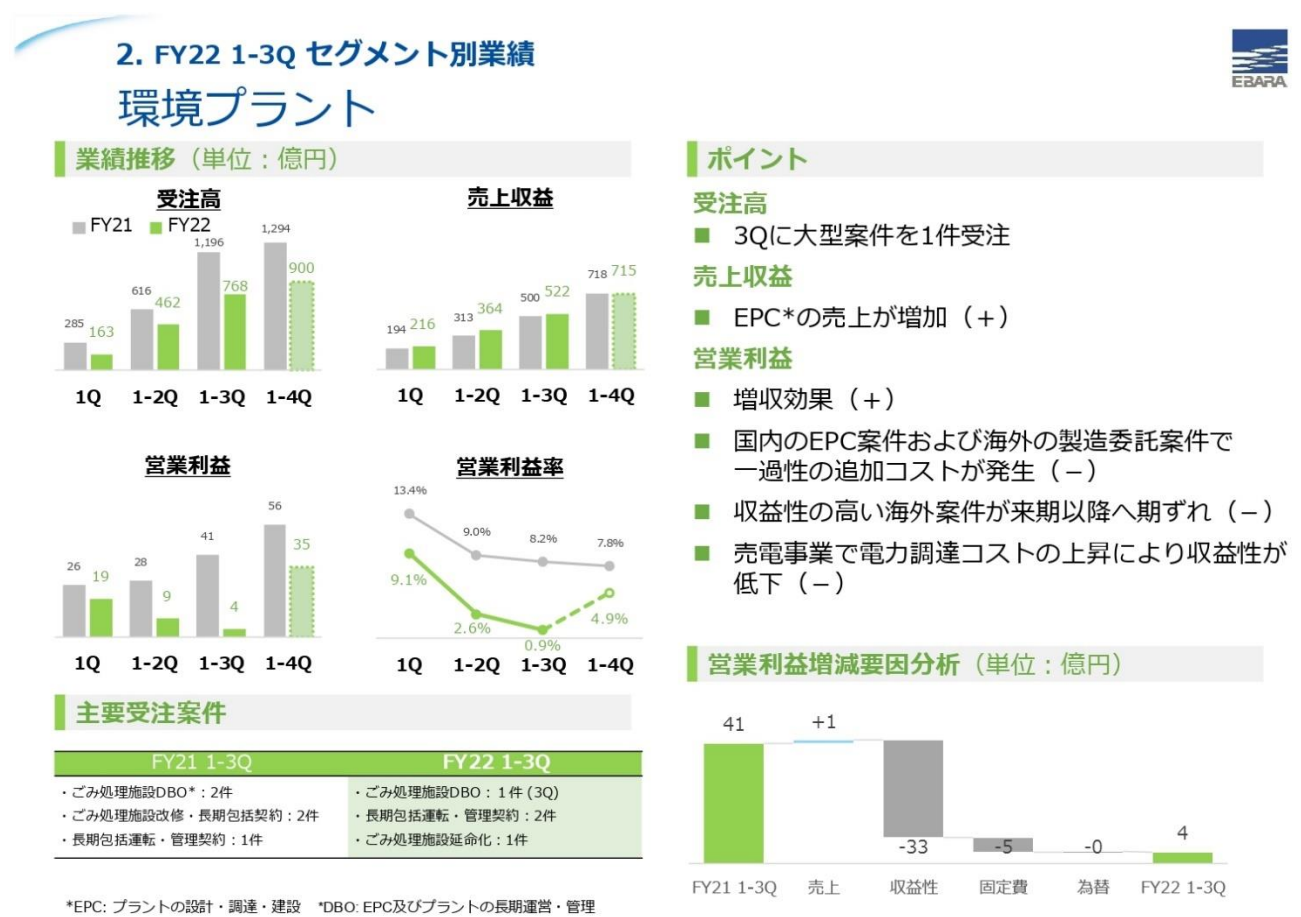
次に、コンプレッサ・タービン事業ですが、インフレの状況やウクライナの情勢などによる不透明感を受けまして、お客様がなかなか投資判断を先に進めない、一般的に慎重な投資判断の状況が継続してございまして、製品の受注は低調に推移しております。

一方で、サービス&サポートは、コロナによる行動制限の緩和などから、お客様がこれまで先送りをしていました定修工事などが今期、需要が増加してきてございまして、サービス&サポートが非常に好調になっております。それもありまして、コンプレッサ・タービン事業として増収増益と着地してございます。

冷熱事業に関しましては、中国の市場の需要が堅調でして、増収増益でした。脱炭素施策下における市場環境の中で、製品需要の取り込みが功を奏しているような状況です。

風水力事業全般では、固定費の増加が見られますが、前期の業績を踏まえた業績連動賞与の増加分や、あとはビジネスボリュームの拡大によって事業活動費が増加しており、全体として固定費が増加してございます。

以上、風水力事業の業況です。



続きまして 8 ページ、環境プラント事業です。

受注は、先ほど申し上げましたが、前年同期比から 427 億円減の 768 億円。768 億円というのは、前年同期比からは下がりましたが、例年と比べて比較的順調な状況です。売上は、22 億円増の 522 億円。営業利益は、36 億円減の 4 億円で増収減益となっております。

受注案件は、左下のリストにございますとおり、第 3 四半期にごみ処理施設 DBO 案件を 1 件受注しておりまして、今期は合計 4 件の大型案件を受注したことになっております。受注の状況は計画どおりの推移です。

売上に関しましては、EPC の工事案件の工事進捗が進み、それも含めて売上としては増収となっております。

営業利益につきましては、前年同期から 36 億円という大きな減少となっておりますが、要因は、先ほど申し上げましたとおり、EPC 工事案件の進捗が進んだことによって、EPC、O&M 比率の中の EPC の部分が多くなっているという意味で、全体として、収益性が低いタイミングの売上であるということを踏まえまして、それ以外に、今期特有の要因が三つございまして、結果として 36 億円の減少となっております。

その三つのうちの一つ目に関しましては、第 2 四半期決算の際にもご説明しましたが、国内の EPC 案件で、もう既に完工しておりますが、今期完工の国内 EPC 案件の中で、追加コストが発生するトラブルが発生しまして、数億円レベルの追加コストが発生していること。

それから二つ目の要因は、中国の子会社で機器製造委託を受けて製造しておりますが、そこでの追加コストが発生していること。あとは、同じ中国の子会社で、比較的収益性の高い海外案件がお客様の理由によりまして、来期へ期ずれしたこと。その二つによって、中国の子会社でのマイナスが発生しているというのが二つ目の要因です。

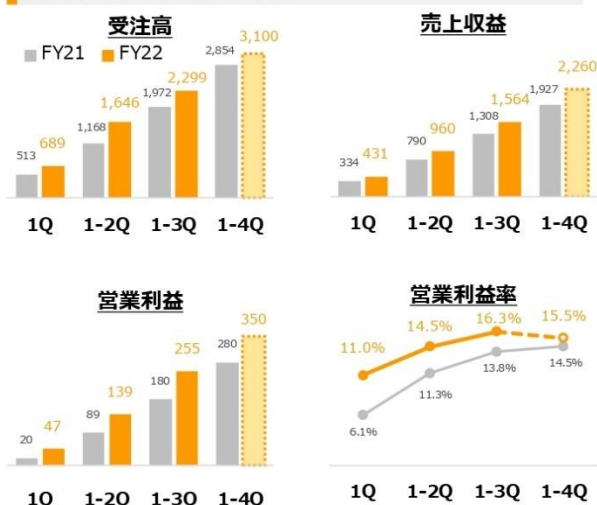
三つ目の要因は、ごみ処理施設でのごみ発電をベースに行っている当社の売電事業におきまして、電力調達コストが想定より膨らんだというような事象がございまして、その結果として、収益性が低下し、今回の前年同期比マイナス 36 億円という状況になっております。

今期特有の要因におきましては、将来的に同じようなロスが発生しないようには再発防止策を展開しております。

2. FY22 1-3Q セグメント別業績 精密・電子



業績推移 (単位: 億円)



地域別売上収益

FY22 1-3Q (単位: 億円)	日本	アジア (日本 除く)	北米	欧州	その他	合計
売上収益	343	905	180	128	6	1,564
増減* (対FY21 1-3Q)	↘	↗	↗	↗	↘	↗

* ↗は+5%以上、↘は-5%以下の変化を、→は変化が±5%未満であることを表す

ポイント

受注高

- 半導体市場の設備投資は高水準で推移
- コンポーネント、CMP共に増加

売上収益

- コンポーネント、CMP共に増加 (+)
- S&Sは引き続き堅調 (+)
- 部材調達難の影響による出荷遅れが発生 (-)

営業利益

- 増収効果 (+)
- 自動化工場の生産性向上によりコンポーネントの収益性が改善 (+)
- 人件費が増加 (-)

営業利益増減要因分析 (単位: 億円)



精密・電子事業です。

こちらは好調で、受注が前年同期比から 326 億円増加の 2,299 億円。売上は 256 億円増の 1,564 億円。営業利益は 75 億円増の 255 億で、受注、売上、営業利益ともに精密・電子事業として過去最高を更新しています。

半導体市場の減速懸念によって、一部のお客様の中で、設備投資計画の見直しや工場稼働率低下などの不透明感が高まっているという状況もございますが、現在までのところ、半導体市場における当社のお客様の設備投資は、依然として高水準で推移しております。引き続きお客様からの先行発注の動きも見られ、コンポーネント、CMP の両サブセグメントともに好調に推移してきております。

売上につきましては、部材不足による出荷遅れは、第 2 四半期のときもご説明しましたが、第 3 四半期でも継続しておりますが、製品売上は増加しており、お客様の工場稼働率も高いことから、サービス&サポート売上も増加している状況です。

営業利益におきましては、増収効果と、それから、ドライ真空ポンプの自動化工場の稼働率上昇が功を奏しまして、収益性が上がっていること、それからサービス&サポートが好調で、サービス&サポート売上比率も増加したことなどが貢献して、全体として収益性増加、増益となっております。

固定費は、引き続き需要増に対応した人材採用などの影響がありまして増加傾向にはございますが、それを加味しても営業利益増加となっております。

第3四半期の連結業績に関する説明は、以上でございます。

3. FY22 業績予想 連結業績



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY21 実績 a	FY22 旧計画 22/08/12 b'	FY22 計画 22/11/14 b	1-4Q			
				前期比		前四計画比	
				増減 b-a	増減率	増減 b-b'	増減率
受注高	7,714	7,505	7,835	+120	+1.6%	+330	+4.4%
売上収益	6,032	6,840	6,700	+667	+11.1%	-140	-2.0%
営業利益	613	675	675	+61	+10.0%	-	-
営業利益率	10.2%	9.9%	10.1%	-0.1pts		+0.2pts	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	436	465	465	+28	+6.6%	-	-
ROIC	10.7%	10.3%	10.1%	-0.6pts		-0.2pts	
1株当たり年間配当金	163	170	170	+7		-	
中間配当金	50	85	85	+35		-	
期末配当金	113	85	85	-28		-	
為替レート							
対米ドル (円)	109.86	125.00	125.00	+15.14		-	
対ユーロ (円)	129.91	135.00	135.00	+5.09		-	
対人民元 (円)	17.04	19.00	19.00	+1.96		-	

続きましては、通期の業績予想に関するご説明をさせていただきます。

10 ページ目でございます。

世界的なインフレ、ロシア・ウクライナ情勢や中国経済減速など、当社を取り巻く事業環境におきましては、さまざまな厳しいファクターも存在しておりますし、現在、資源価格の高騰や部材の調達の手入などについては、年内その影響は継続すると見ております。サプライチェーン体制の拡充

や、各種施策を継続強化しております、売上計画を着実に遂行してまいりたいと思っております。

それを踏まえまして、通期の業績予想につきましては、各事業の第3四半期までの進捗や今後の需要見通しなどから、この表のとおり若干の修正を加えております。

前回の公表から受注は、330億円増加の7,835億円。売上は、若干2%ぐらい減らしまして6,700億円で、通期着地する見込みとしております。

営業利益は、前回から変わらず675億円で着地する見通しですが、セグメントごとでの修正、調整があります。

当期利益以下も、変わらず465億円としています。

このとおり着地したときの営業利益率は10.1%。ROICは10.1%となる見込みです。

一株当たりの配当金予想、それから想定している為替レートに関しましては、前回開示から変更ありません。

5. 補足資料

キャッシュ・フロー



(単位: 億円) 発表日(年/月/日)	1-3Q			1-4Q				
	FY21	FY22	増減	FY21	FY22 旧計画 22/08/12	FY22 計画 22/11/14	増減	増減
	a	b	b-a	c	d'	d	d-c	d-d'
営業活動CF	651	233	-418	728	400	300	-428	-100
投資活動CF	-331	-322	+9	-313	-480	-460	-146	+20
フリーCF	319	-89	-408	414	-80	-160	-574	-80
財務活動CF	-181	-61	+119	-294	-134	-35	+259	+99

キャッシュフロー計画に関しまして、補足資料 20 ページに掲載しておりますが、早期の部品在庫の確保などにより、棚卸資産の増加傾向に起因しまして、営業活動キャッシュフローが前回計画より悪化する見込みです。

3. FY22 業績予想

セグメント別



(単位: 億円) 発表日(年/月/日)		1-4Q						
		FY21 a	FY22 旧計画 22/08/12 b'	FY22 計画 22/11/14 b	前期比		前回計画比	
					増減 b-a	増減率	増減 b-b'	増減率
連結合計	受注高	7,714	7,505	7,835	+120	+1.6%	+330	+4.4%
	売上収益	6,032	6,840	6,700	+667	+11.1%	-140	-2.0%
	営業利益	613	675	675	+61	+10.0%	-	-
	営業利益率	10.2%	9.9%	10.1%	-0.1pts		+0.2pts	
風水力	受注高	3,548	3,720	3,820	+271	+7.7%	+100	+2.7%
	売上収益	3,369	3,710	3,710	+340	+10.1%	-	-
	営業利益	247	270	300	+52	+21.0%	+30	+11.1%
	営業利益率	7.4%	7.3%	8.1%	+0.7pts		+0.8pts	
環境プラント	受注高	1,294	900	900	-394	-30.5%	-	-
	売上収益	718	715	715	-3	-0.5%	-	-
	営業利益	56	50	35	-21	-37.9%	-15	-30.0%
	営業利益率	7.8%	7.0%	4.9%	-2.9pts		-2.1pts	
精密・電子	受注高	2,854	2,870	3,100	+245	+8.6%	+230	+8.0%
	売上収益	1,927	2,400	2,260	+332	+17.2%	-140	-5.8%
	営業利益	280	360	350	+69	+24.8%	-10	-2.8%
	営業利益率	14.5%	15.0%	15.5%	+1.0pts		+0.5pts	
その他、調整	受注高	17	15	15	-2	-15.5%	-	-
	売上収益	16	15	15	-1	-7.2%	-	-
	営業利益	29	-5	-10	-39	-	-5	-
	営業利益率	180.1%	-33.3%	-66.7%	-246.8pts		-33.4pts	

セグメントごとの業績予想修正につきましては、次ページでご説明します。

次のページをご覧ください。

セグメント別です。

サブセグメント別は、14 ページ以降にも、補足説明資料にも掲載しておりますので、そちらも併せてご覧いただければと思います。

まず、受注のセグメント別です。連結全体で、先ほども申し上げましたとおり 330 億円の増加ですが、その内訳は風水力事業が主にポンプ事業で 100 億円増加。精密・電子事業におきましては、主に CMP で 230 億円の増加、合わせて 330 億円の増加と考えております。

次に、売上に関しましては、先ほど申し上げましたが、連結全体で140億円の減少、下方修正としておりますが、これは主に精密・電子事業の部品不足などによる期ずれに起因するもので、精密・電子事業のCMPおよびコンポーネント両サブセグメントで発生している売上の未達です。

最後に、営業利益に関しましては、連結全体では、先ほど申し上げたとおり、前回計画から変更はありませんが、内訳には入り繰りが生じています。

まず、風水力事業では、30億円の増加。これは主にサービス&サポートが好調なコンプレッサ・タービン事業で、30億円増加となる見込みです。

環境プラント事業は、先ほど申し上げたとおり、想定外の今期特有の追加コストなどが発生しておりますこともありまして、15億円の減少。

それから精密・電子事業では、10億円の減少。これは売上の減少に伴った利益の減少です。

それから、その他事業を5億円の営業利益減としておりますが、これは主に本社系の連結子会社の清算に関連して発生する一時的な費用として計上している結果です。

3. FY22 業績予想 事業環境の変化への対応



- 事業環境の変化による様々なリスクに適切に対応し、業績への影響を最小化
- 通期営業利益への影響額は今回の業績予想に織り込み済み

リスク	対象事業	対策	営業利益影響額 (前年同期比)	
			1-3Q実績	1-4Q見通し
原材料価格の高騰	全事業	(販売) ■ 価格改定 ■ 見積への反映	-30億円	-50億円～ -60億円
部材の調達難	ポンプ、CT、 精密・電子	(調達) ■ 一括購買 ■ グローバル調達強化 ■ 調達部門人員増強 ■ 設計変更		
中国での ロックダウン	ポンプ、冷熱、 精密・電子	■ 増産によるリカバリー	-11億円	
為替	全事業	(想定レート据え置き) USD125円、EUR135円、CNY19円 (為替感応度) USD1億円、EUR0.1億円、CNY1億円 ※10～12月期間における1円あたり営業利益変化	+46億円	+60億円

次のページをお願いします。

今期の事業環境の変化に対して、先ほど申し上げました今期の業績予想に対して見込んでいるリスクと、リスクに対する営業利益の具体的な影響額を示したスライドです。

第2四半期決算のときにもご説明しておりますが、通期の営業利益の影響額を原材料価格の高騰、部材調達難、それから中国でのロックダウン等のネガティブファクターによって、第2四半期決算時点では、マイナス45億円からマイナス55億円ぐらいネガティブに影響すると申し上げておりましたが、若干調整して第2四半期決算時点よりは多くなっています。マイナス50億円からマイナス60億円ぐらいのレンジで、通期ではネガティブファクターの影響は、さまざまな対策を立てた上で、このくらいの影響額になると、今のところ見通しております。

さまざまな対策として、価格改定の効果などもやっております、その効果も上期から徐々に効果が出てきておりますが、それらの施策によって、引き続き販売と調達の両面から、リスクの最小化を図っていくようにしていきたいと考えております。

中国のロックダウンは、上期で中国子会社において、工場停止や物流停滞などの影響を受けておりますが、既に行動制限が解除されておりますので、行動制限解除後の増産によって上期の遅れをリカバーする状況です。

為替変動による影響額の見通しは、現状為替レートがスライドに記載ございますとおり、米ドルで125億円、ユーロで135億円、中国人民元で19円となっておりますが、それを前提にしますと、前期と比べて60億円程度の増益効果が見込まれると考えております。原材料高騰や部材調達難によるネガティブな影響と為替のポジティブな影響が、前期比でほぼ同水準になるという見込みに関しましては、期初の想定から変わっていない状況です。

第4四半期に対する為替感応度に関しましては、現在の想定レートに対して、米ドルで1円変化した場合の為替感応度は、営業利益に対する通期の着地点に対する影響度は1億円程度、ユーロで0.1億円、中国元で1億円程度という感応度で考えています。

以上が、想定されるポジティブリスク、ネガティブリスクに対する今期着地点の考え方でございます。

4. トピックス

E-Plan2022 標準ポンプ事業：海外戦略の進捗



E-Plan2022 基本方針

- 新市場の開拓および販売拠点の拡大
- 成長が期待できる地域に投資やリソースを配分
- マーケティング機能と開発体制を強化し競争力のある製品を市場投入

主要施策の進捗

※34か国に37拠点を展開（2022年9月末現在）

- 2020～2022年の3年間で10か所以上の拠点を設立しカバレッジを拡大

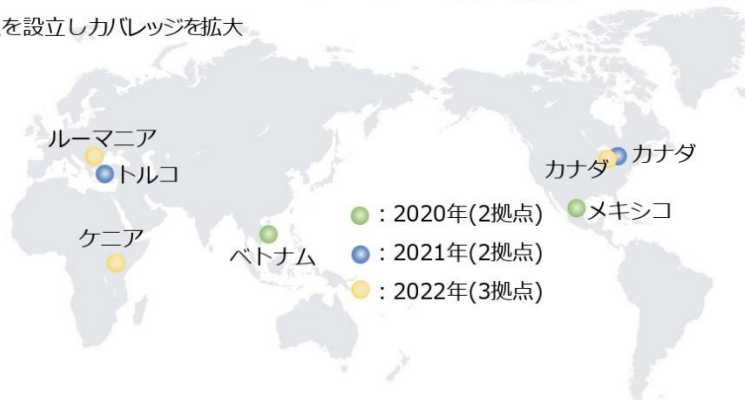
2020年 : メキシコ、ベトナム

2021年 : トルコ、カナダ

2022年 7月：ケニア拠点設立

7月：ルーマニア拠点設立

9月：Hayward Gordon L.P. 社
買収完了（カナダ）



北米の産業ポンプ・ミキサーメーカー買収

目的	■ 北米地域での事業拡大を目的とした、製品ラインナップ拡充と販路獲得
買収対象	■ Hayward Gordon L.P.（カナダ）及び傘下グループ会社 ※生産拠点は2か所（カナダ・米国）
買収完了時期	■ 2022年9月30日
事業内容	■ 産業用ポンプ・ミキサー・モニタリングシステムなどの製造販売

最後に今期の決算に対するトピックの話ですが、標準ポンプ事業の海外戦略の進捗に関しまして、ご説明します。

中期経営計画の中で、グローバル市場における人口増加、それから経済成長や産業の発展等が期待できる地域や国での投資やリソースの配分を拡大していくことを掲げております。3年間の中期経営計画、20年から22年の3年間で、10か所以上の拠点を設立していこうということを目標にして進めてきています。20年にメキシコ、ベトナムの2拠点、21年にトルコのポンプメーカーの買収を含めて、トルコ、カナダで2拠点。さらに今年度になりまして、ケニア、ルーマニア、そして9月に、先ほど申し上げましたとおり、カナダに当社がごぞいます Hayward Gordon 社の買収が完了しまして、今年度3拠点まで拡大をしてきている状況です。今回、買収を行いました Hayward Gordon 社に関する説明をしますが、買収目的は、北米地域における標準ポンプ事業の事業拡大を目指しております。

もともと北米地域における当社のプレゼンスがそれほど高くありませんので、その拡大ということと、それからあとは、北米地域における公共下水や産業装置、プロセス市場向けの製品のラインナップ拡充といったところで、シナジーがあると見込んでいます。

今後も引き続き、受注機会の拡大に向けたターゲット地域の拠点施設設置を目指していく所存です。

5. 補足資料 受注高



発表日(年/月/日)	FY21				FY22					
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q 旧計画 22/08/12 a	1-4Q 計画 22/11/14 b	増減 b-a
	(単位: 億円)									
連結合計	1,594	3,449	5,768	7,714	1,770	3,994	5,945	7,505	7,835	+330
風水力	789	1,654	2,585	3,548	911	1,878	2,866	3,720	3,820	+100
ポンプ	488	963	1,498	1,977	578	1,156	1,726	2,100	2,200	+100
CT	175	404	676	1,047	193	412	652	1,000	1,000	-
冷熱	95	221	317	402	105	246	382	450	450	-
その他	30	64	93	121	34	62	104	170	170	-
環境プラント	285	616	1,196	1,294	163	462	768	900	900	-
精密・電子	513	1,168	1,972	2,854	689	1,646	2,299	2,870	3,100	+230
コンポーネント	203	445	738	1,017	312	631	920	1,200	1,200	-
CMP	280	680	1,182	1,767	357	977	1,330	1,600	1,830	+230
その他	30	42	52	69	20	37	48	70	70	-
その他	5	9	13	17	4	7	10	15	15	-

5. 補足資料

売上収益



発表日(年/月/日)	FY21				FY22					
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q 旧計画 22/08/12	1-4Q 計画 22/11/14	増減
								a	b	b-a
連結合計	1,352	2,741	4,199	6,032	1,528	3,124	4,800	6,840	6,700	-140
風水力	819	1,628	2,378	3,369	876	1,792	2,702	3,710	3,710	-
ポンプ	524	962	1,370	1,915	516	974	1,472	2,100	2,100	-
CT	166	405	622	912	224	506	770	1,050	1,050	-
冷熱	86	190	284	407	101	247	365	450	450	-
その他	41	71	100	135	34	63	93	110	110	-
環境プラント	194	313	500	718	216	364	522	715	715	-
精密・電子	334	790	1,308	1,927	431	960	1,564	2,400	2,260	-140
コンポーネント	184	375	572	824	219	458	731	1,115	1,070	-45
CMP	138	388	691	1,036	195	470	790	1,225	1,130	-95
その他	11	26	44	66	16	30	42	60	60	-
その他	4	8	12	16	3	6	10	15	15	-

5. 補足資料

営業利益



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY21				FY22					
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q 旧計画 22/08/12	1-4Q 計画 22/11/14	増減
								a	b	b-a
連結合計	122	246	370	613	141	271	426	675	675	-
風水力	79	132	150	247	79	127	176	270	300	+30
ポンプ	76	100	105	141	65	84	118	145	150	+5
CT	-6	17	31	88	4	21	50	100	120	+20
冷熱	3	8	9	16	2	11	10	21	21	-
その他	7	5	3	1	6	9	-2	4	9	+5
環境プラント	26	28	41	56	19	9	4	50	35	-15
精密・電子	20	89	180	280	47	139	255	360	350	-10
その他、調整	-3	-2	-1	29	-4	-4	-10	-5	-10	-5

5. 補足資料

受注残高



発表日(年/月/日)	FY21				FY22					
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q 旧計画 22/08/12	1-4Q 計画 22/11/14	増減
								a	b	b-a
連結合計	4,984	5,461	6,337	6,515	6,895	7,749	8,132	7,180	7,650	+470
風水力	1,966	2,032	2,222	2,243	2,387	2,581	2,744	2,253	2,353	+100
ポンプ	891	943	1,070	1,014	1,127	1,280	1,402	1,014	1,114	+100
CT	850	834	894	1,012	1,031	1,074	1,089	962	962	-
冷熱	142	168	171	137	149	148	162	137	137	-
その他	81	85	85	78	78	77	90	138	138	-
環境プラント	2,362	2,574	2,969	2,852	2,798	2,960	3,104	3,037	3,037	-
精密・電子	654	853	1,144	1,417	1,706	2,205	2,281	1,887	2,257	+370
その他	0	0	1	1	2	2	1	1	1	-

5. 補足資料

貸借対照表



(単位：億円)

	FY21 3Q	FY21 4Q	FY22 3Q	増減	増減
	a	b	c	c-a	c-b
資産合計	6,920	7,197	8,080	+1,159	+883
流動資産	4,718	4,999	5,563	+844	+564
現金及び現金同等物	1,371	1,364	1,306	-65	-58
営業債権	1,846	2,184	2,204	+358	+20
棚卸資産	1,258	1,213	1,750	+492	+536
その他流動資産	243	236	303	+59	+66
非流動資産	2,201	2,198	2,516	+314	+318
負債合計	3,859	3,980	4,539	+679	+558
営業債務	1,338	1,487	1,564	+225	+76
有利子負債	1,125	1,120	1,386	+260	+265
その他負債	1,395	1,372	1,588	+193	+216
資本合計	3,061	3,216	3,541	+479	+325
親会社所有者帰属持分	2,973	3,123	3,443	+470	+320
その他資本	88	93	97	+9	+4
親会社所有者帰属持分比率	43.0%	43.4%	42.6%	-0.4pts	-0.8pts
D/Eレシオ	0.38	0.36	0.40	+0.02	+0.04

5. 補足資料



資本的支出・減価償却費・研究開発費

発表日(年/月/日)	1-3Q			1-4Q				
	FY21	FY22	増減	FY21	FY22 計画 22/08/12	FY22 計画 22/11/14	増減	増減
	a	b	b-a	c	d'	d	d-c	d-d'
資本的支出	167	192	+25	227	470	300	+72	-170
風水力	76	76	+0	99	170	120	+20	-50
環境プラント	4	16	+11	7	30	30	+22	-
精密・電子	46	43	-2	56	180	80	+23	-100
その他、調整	39	55	+16	64	90	70	+5	-20
減価償却費	160	173	+13	214	245	245	+30	-
風水力	83	84	+1	109	110	110	+0	-
環境プラント	5	6	+0	8	10	10	+1	-
精密・電子	50	55	+5	69	80	80	+10	-
その他、調整	20	26	+6	27	45	45	+17	-
研究開発費	96	106	+9	135	175	175	+39	-
風水力	44	54	+9	62	75	75	+12	-
環境プラント	5	7	+2	9	15	15	+5	-
精密・電子	46	44	-2	63	85	85	+21	-

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

私からのご説明は、以上でございます。ご質問をお受けしたいと思います。